

防災ニッポン

仕事中の被災に備える

働いている場合、1日の大半を勤務先で過ごすため、地震が発生すれば、職場などで被災する可能性が高い。国などは一斉帰宅を抑制するため、原則3日間、職場などで待機することを求めている。職場にとどまることを前提にした備えが大切だ。
(生活部 石原宗明)

かばんに軽食、救急品

内閣府によると、首都直下地震では帰宅困難者が最大で約840万人と想定されている。交通機関が停止するなか、無理に帰宅せず、勤務先にとどまって会社の指示に従うのが基本だ。まず気になるのが家族の安否。工学院大教授の村上正浩さん(都市防災)は「安否確認が早期にできれば、安心して当面、会社での災害対応にも取り組める」と話す。伝言サービスなど安否の連絡方法を事前に家族で決めておく。震度6弱以上の地震が発生するなどの際、災害用伝言ダイヤル「171」にかけると、伝言を録音、再生できる。

職場に3日程度とどまることを想定した準備が大切だ。飲料や食料など従業員向けの備蓄状況を確認し、自分でも必要なものを用意しておく。断水などに備えてウェットティッシュ、歯みがきシート、非常用トイレを備えておきたい。徒歩で帰宅する際に使える歩きやすい靴も用意する。また、通勤などの移動中

や出先での被災に備え、通勤用かばんにはこうした備品のほか、軽食、地図、ばんそうこうなどの救急品、非常用トイレを入れておく。携帯ラジオや懐中電灯もあるとよい。自治体では、移動中などに被災した人を受け入れる施設を「一時滞在施設」として公表しており、頻繁に訪れる地域の施設を事前に把握しておく。

会社の帰宅ルール把握

機関が復旧していないなどの場合は徒歩で帰宅する。帰宅ルートや、帰宅対象者の優先順位など会社の帰宅ルールを把握しておく。スムーズに帰宅するため、ルートの被災状況などを確認するのが重要で、辻さんは「災害時はSNS上で偽情報も飛び交う。自治体など正確な情報の入手先も確認しておくべきだ」と話す。

職場に3日間待機を想定

勤務先で地震が発生した時の注意点



●発生時はできるだけ動かず、机の下に入るなどして安全を確保する

●エレベーターに乗っている時に地震が発生したら、すぐに各階の停止ボタンを押し、最寄り階で降りる



●発生後は乗らない



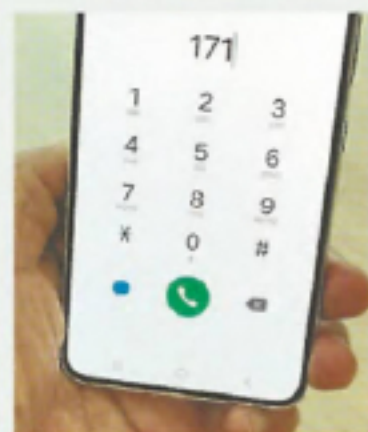
●発生後は、情報を集め、会社の指示に従って行動する

家族との連絡方法

・災害用伝言ダイヤル「171」にかけ、相手の電話番号を入力すると30秒以内で伝言を録音・再生できる

・各携帯電話会社の災害時の伝言システムを活用

・遠方の親戚や知人を通じて安否を伝える



勤務中の被災に備えて

※村上さん、辻さんへの取材を基に作成

事前に確認しておくこと

- 勤務先での防災用品の備蓄状況、災害時の指示系統を把握する
- 非常口や階段、AED、消火器の位置を把握し、避難ルートを確認する
- 会社周辺の一時滞在施設も把握し、自宅までの帰宅ルートを複数把握しておく
- 家族と連絡方法を確認しておく

会社の机や移動中のかばんに入れておくものの例



非常用トイレ 菓子など軽食 携帯ラジオ

歩きやすい靴 懐中電灯 携帯充電器

歯みがきシート 生理用品

マウスウォッシュ

タオル

水のペットボトル

ウェットティッシュ

救急ガーゼ

マスク

ガーゼ

ばんそうこう



くらし×防災メディア「防災ニッポン」で、これまでの企画記事を読むことができます。